

ここが聞きたい!

いっぱん

小学校の再編をどう考えるか

内田雅人 議員

町長

今は考えていないが子供が減れば考える必要がある



問 平成21年に学校再編基本計画検討委員会にて、小学校の再編整備をすること、との答申があった。3年経った今、再編を進めて欲しいという声があること、今の出生数から見えてくることを踏まえて問う。現状とその経緯は。

答 小、中学校は財政上の問題はほとんど考慮する必要が無いので、それ以外の教育の問題として地域の皆さんの声を中心に検討がされるべきだ。

答 安部教育長 高尾地区からは、児童の今後の健全な成長のために適切な判断を頂きたいとの回答があった。高田小学校のPTAとも意見交換等行う予定。教育委員会として再編整備す

るといふ方針は変わっていない。

問 難しい問題だが、いちばん優先すべきは、子供たちにとってどうか、最善の教育環境なのかどうかだ。優先順位を間違えてはならない。

望ましい人数を下回る小学校におけるメリットとデメリットは何が考えられるか。

答 安部教育長 メリットは、①個別指導が徹底出来る②各行事に活躍の機会が児童一人ひとりに対して多くなる③集団生活において家庭的な人間関係を形成しやすくなる④教員相互の連携が密で共通理解が得やすいなど。

逆にデメリットは、①教員の絶対数が少なく自習が多くなる②多様な意見を出して思考の広がりを得たり価値観を高めることが限られる③いい意味での競争心が育ちにくい④2カ年単位の指導のため理解度の問題が生ずる⑤体育や音楽などグループ学習が不十分になる⑥固定化された人間関係の

中で社会性が育ちにくく活性化しにくい⑦教頭が学級担任となり学校運営に支障をきたすことが懸念されるなどである。

問 その中で、去年から始まった合同の修学旅行やキャンプはとても良い取り組みだ。やはり集団での学びの場を小さい頃から与えることで、多様な意見があることを知り、切磋琢磨し、良い人間関係を作っていくすべを学んでいく。将来大きな集団の中に入ったときにも、たくましく生きていける。真の賢さ、生きていく力の基礎作りが出来るかどうかだ。このままいった場合3年後全校で9人、5年後5人となる学校が出てくるが、今後の小学校についての方針は。

答 今のところは再編する考えはないが、子どもの数が大きく変わってくる可能性がある。考えていく必要がある。

問 何とかこの奥出雲町に暮らす人を増やしたいと願うわけだが、実は学校環境にもその

小学校名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
布勢小	52	52	52	50	51	57	54
三成小	101	88	83	85	89	91	84
高尾小	11	11	10	9	9	10	11
亀堂小	38	35	38	35	32	29	32
高田小	13	15	13	11	8	5	7
阿井小	57	60	65	62	68	65	67
三沢小	28	24	21	19	18	19	16
島上小	48	42	42	37	35	30	21
横田小	129	119	114	112	103	95	84
八川小	52	48	54	54	53	53	54
馬木小	63	61	58	54	55	54	49
小学校計	591	556	560	546	531	508	489

各小学校の今後予想される児童数の推移

側面がある。リターンしたいが、同級生が少ない子どもの学校環境を考える。躊躇する、という意見があるということ。その観点から是非考えて頂きたい。先を見据えて審議会を設ける、保護者にアンケートをとる考えは。

答 町の教育委員会で検討された答申、当面はそれでやっていくべきだ。

問 何年かこのままなら、合同での学びの場を増やすことはできないか。

答 安部教育長 無理がなく成果を生む形で合同の音楽や国語の授業などに発展していけばいいと考える。